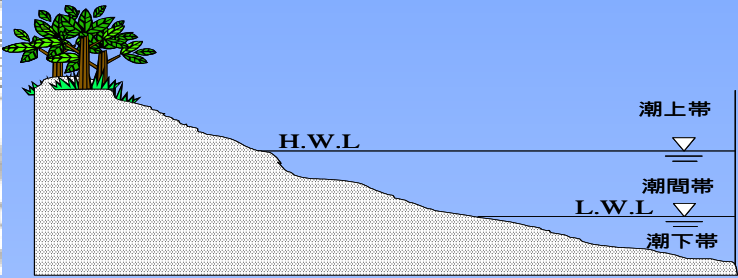


マッピング調査 調査方法

1. 調査範囲



- ・調査範囲は、汀線沿いに約120mとします。調査範囲を13ブロックに分割（1ブロック20m）し、ブロック毎に観察を行います。
- ・汀線直角方向では潮上帯から潮間帯とします。



2. 潮間帯生物調査方法

各ブロックの陸側において汀線に対して垂直に並び、前進しながら調査対象生物を観察します。また、岩礁部と干潟部で調査方法を分けて観察します。調査対象生物は裏面に写真を示しています。

(1) 岩礁部

各ブロックにおいて対象生物の個体数または被覆度を確認します。個体数または被覆度の観察方法は、図の方法を用いて、見られない～非常に多い、の6段階に分けて記録します。調査対象生物以外に確認された生物種等も記録します。

(2) 干潟部

各ブロックにつき1～3箇所についてコドラートを設定し、ハクセンシオマネキ、スナガニについては、巣穴の数、アサリについては個体数を記録します。コドラートの設定は指導員が行います。

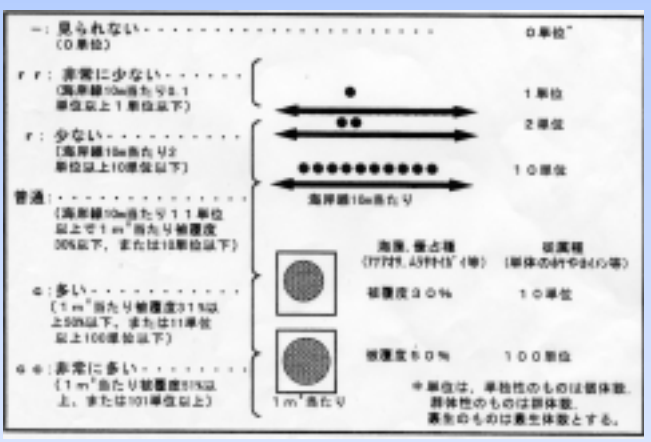
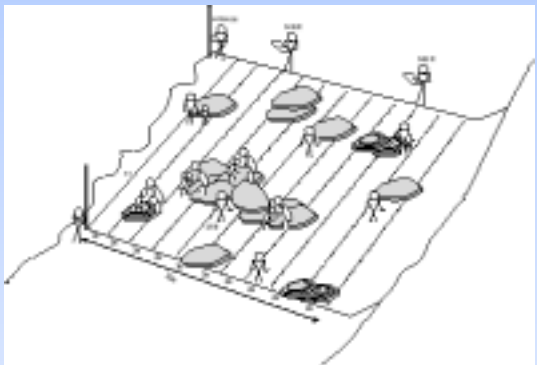


図 観察方法

3. 潮間帯生物の数の他に、潮間帯生物の住んでいる環境を調べるために以下のことを調べます。

(1) ゴミ・漂着物調査：ゴミ・漂着物については、次のように分類し、記録します。

産業系	カキ養殖の部材およびカキ殻
生活系	発泡スチロール、ペットボトル、空き缶、空き瓶、ビニール袋など
自然系	海藻、木切れなど

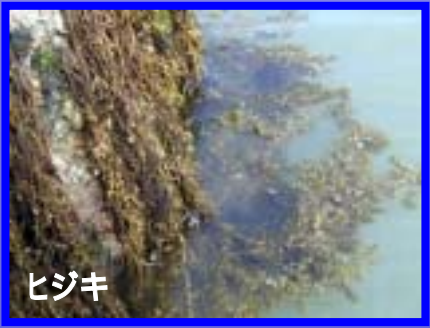
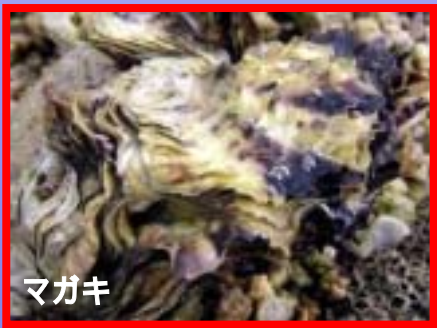
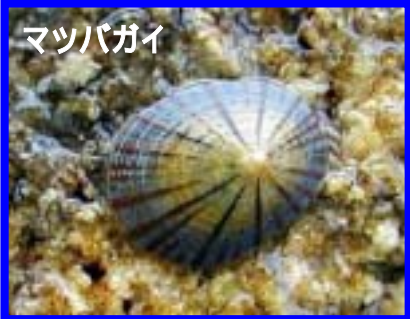
(2) 基質調査：下の表のように、砂礫の大きさを決定しました。表に従って、各大きさの割合を調べます。

	小	中	大
砂	～ 0.1 mm	0.1mm ～ 0.5mm	0.5 mm ～ 2.0 mm
礫	2.0 mm ～ 5.0 mm	5.0mm ～ 20mm	20 mm ～ 80 mm
岩	80 mm ～ 1.0 m	1.0 m ～ 2.0 m	2.0 m ～

調査対象生物

岩礁部

水深



干潟部



清浄指標種

汚濁指標種

貴重種

特徴的な種